

海軍參謀官

海軍省

秘密

海軍大臣



副官

花園口上陸地撰定ノ顛末

般海交附ノ第三軍戰闘詳報ナルモノヲ一讀スルニ

花園口上陸點撰定ノ關シ艦隊ノ執リシ意見ニ對

頗ル不滿ヲ表セル一節アリ前後ノ文付ヨリ推シテ之ヲ

約スル概略左記ノ意味ト解ス

陸軍ニ於テハ上陸點ハ成ルベク目的地ニ近キランコトヲ

欲シ艦隊ハ數回ノ協議後復ヲ爲セシメ艦隊

ニ在テハ後ヲニ當時顧慮スルニモ是ラガル水雷

艇ノ來襲ヲ恐レ少シモ遠ク東ニ避ケテ之ヲ撰

ハシコトヲ主張シ協議經テ又ハ尚ホ協議ヲ重ク

居リテハ時機ニ後ニシテ又ハ前途ノ困難ヲ

顧ミルニ適シク又ハ止ムヲ計ハ艦隊ノ希望ニ應

海軍第三十七號

古今事蹟類編

0585

上陸点ヲ豫撰スル為メ軍艦ヲ出シテ偵察セシ
メタル結果ヲ參考スルバ豫撰地外之ニ匹敵ス
ル揚陸便宜ノ地ナキハ殆ド明瞭ナリシト雖モ右
ノ希望ヲ承知スルバ如何ニモ尤ト思惟シ且ツ海
圖下陸地圖トハ大ニ相違セル処アルヲモ發見シタル
が故ニ實際ハ豫撰地ガ碧流河ノ西ニアルヤモ感
ハ計ラズ又タ其前ノ偵察充分ナラスシテ或ハ皮
子窩ニ近ク相當ノ地アルヲ見遺シタルヤモ計
ラズ兎モ角再査ヲ為スニ若カズトノコトニナリ艦
隊ヨリハ鮫島參謀長第二軍ヨリハ神尾參
謀官高千穂ニ乗組ミ水雷艇ヲ伴ヒ行キ再
査ノ結果ハ失望ニモ豫撰上陸点ハ碧流河
ノ東方ナルコト明瞭トナリ且ツ碧流河以西ハ何カ

0586

ニモ遠浅ニシテ當時季節ニ於テ屢々遭遇スル風
波ノ事ヲモ考慮スル到底揚陸地トナシ得サルモノ
ト認メ(第二軍ノ参謀官ハ斯ク認メザリシヤ計ハス)
帰航復命ニ及ビタルトモ之ガ為テ全ク第二軍ノ
希望ヲ画飾ニ歸セシムルハ何カ遺憾ニ堪ヘズ
殊ニ第二軍参謀官ノ中ニテ師團ノ幾分ニテモ
皮子窩ニ上陸セシメタルノ希望アリトノ事ニ付今
度ハ此遠浅不便ノ地ニ於テ如何ニカシテ此不便
ニ打テ勝ツ揚陸方法アルヤヲ吟味セシト欲シ此
如キ事ニ慣レタル艦長ヲ呼ビ寄セ或ハ全艦隊ニ有ル
小艇及端艇ノ揚陸力ヲ精算シ或ハ運送船ニ
積ミ来レル舢舨ヲ寶査セシメ或ハ支那船ヲ捕獲
シテ之ヲ用ユルノ目算ヲ立テ或ハ端艇陸岸ヨリ遠ク

膠泥 セメントを用ニ供スル滑リ船ヲ得ル、途ヲ求メシ
或ハ満潮時ノミヲ利用シテ揚陸スル、法ヲ立テ、潮時
ヲ算セシムル等、百方其法ヲ講シタルトモ終ニ目算
立ヌズ、故ニ得ズシテ第二軍ノ希望通り致シ
得カルハ、誠ニ遺憾ナリ、書ヲ以テ挨拶ニ及ビ終ニ花
園口ト確定スルコトニ同意ヲ得タリ
事實者、想然ルニ第二軍ノ報告ニ依テ艦隊ハ唯
敵ノ水雷艇ヲ恐レシヲ少シテモ東方ニ遠ク避ケントシ
テ協議ニ應マカリシガ如ク言做シアルハ甚ク其意
ヲ得ルナリ
尚又タ花園口ニ上陸、始メタル後々モ其不便利ナルヲ
訴テ糧食ナトモ皮ヲ富同ノ揚ケ度キニ依リ更ニ同地
ニ復テ協議アリタルバ之ヲ施行セシニ次テ數日ヲ経

0588

更、遠太湾偵察、依頼アリ即ち當時、必要糧食陸揚此トテ目的多三艘、運送船ヲ碇泊セムルニ是レ文ヲ、調査ニ應ニ差急キ為ル得ル文ケノ調査ヲ為セリ其意ハ直ニ第二軍ニ報告セシメタルトモ時機ニ適ニタリテ理由ヲ以テ之ヲ利用セス却テ之ヲ以テ此ノ軍ヲ揚陸ニ便スル地アリタルニ揚陸点決定前艦隊ニ於テ之ヲ測量シ呉ニガリシハ甚ダ遺憾ナリトト報告セリ然ルニ遠太湾ハ水路誌等ニ據ルニ本測ニ所ニテ隊一ナラス底質岩石ナルガ如キヲ以テ之ニ入ルニ際テ注意ヲ加フヘシトアリ單獨ナル艦船ニテ安全ナル鑑地トシテ入り難キ處ナリ況ンヤ多數艦船ヲ入泊ニ得ルヤ否ヤハ洞知セラル。所ニ有ニ係テ該洞ノ初程より四十ノ隊、艦船ヲ泊セシム

0589

予能ハリルヲ認メ全ク斷念シ從テ調査セザル

今日ニ至リ此、如ク過去ノ事ヲ辨明スルハ本官、敢テ
好ミサルトモヨリト雖モ大本營、報告中ニ艦隊ノ
所為ニ關シ此、如キ相違、廉アルヲ察見セシメ本官
職責上亦ク默過スヘカラサルモノアリ止ムヲ得ズ實
際ノ顛末ヲ詳記シテ辨明的報告ヲ為ス所以ナリ
左票報候也

明治廿七年三月廿三日

聯合艦隊司令長官伊東祐亨

大本營 御中

追テ不併辨明ノ儀ハ第三軍司令官口頭ニ通牒致

0590

置
修
也

0591

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>